

答 申 書

近江八幡市水道事業運営委員会

平成 31 年 3 月 26 日

近江八幡市長 小西 理 様

近江八幡市水道事業運営委員会
委員長 山田 淳

近江八幡市水道事業経営戦略について（答申）

近江八幡市水道事業運営委員会は、平成 30 年 6 月 5 日付けで水道事業経営戦略に関する諮問依頼を受け、慎重に審議した結果、下記のとおり答申します。なお、今後留意されるべき事項を附帯意見として申し添えます。

記

近江八幡市の水道事業は、これまで安全・安心な水道として利用者の信頼感の向上に取り組むとともに、持続可能で安定的な事業運営の継続に向けて進められてきた。今後、人口減少社会の到来や、節水機器の普及等により、給水量は減少傾向にある。一方で、施設の老朽化に伴う更新や耐震化に多額の支出が必要である。また、職員数の減少や技術の承継、人材育成等の面からも課題を抱えることになる。これらの点からも、今後の水道経営環境は、非常に厳しい状況を迎えることが見込まれる。しかし、どのような厳しい経営環境にあっても、水道は市民生活にとって必要不可欠なライフラインであり、安全で良質な水道水を将来にわたり安定的に供給し続けなければならない。そこで、今後の水道事業の健全経営を持続させるために策定する経営戦略について、本委員会に諮問があった。

今回、当委員会における協議の過程において、各委員が提案した意見等を反映して、「水道事業アセットマネジメント計画」、及び、当面 10 年間の中期経営計画である「水道ビジョン」と同 10 年間の財政計画である「経営戦略」とを内容とする「近江八幡市水道経営ビジョン 2019」が策定された。この「近江八幡市水道経営ビジョン 2019」では、基本理念（経営理念）を「安土桃山時代から先人により創られ受け継がれてきた水の郷の生命（いのち）の水を次世代につなぎます」とし、経営方針に「経費の縮減の志向を図る」及び「合理的な投資を実施する」を掲げ、それらの目標の下に、①水源・水質、②施設・管路、③経営の 3 つの側面から、各施策が展望されている。計画では、施設や事業経営における現状と課題の整理をし、それぞれの課題に対して将来を見据えた上での施策や推進方策がわかりやすくまとめられている。また、投資は更新時期等を考慮し優先順位付けされた計画的かつ効率的なものであり、財源は事業継

続のために必要な資金を料金改訂によって見通しがつけられており、投資試算と財源試算との均衡は保たれている。この計画に基づき水道事業を展開していくことは、市民生活に配慮しつつ、安定的かつ持続可能な経営基盤の形成に繋がるものと見込まれる。以上の点から、当運営委員会は「近江八幡市水道経営ビジョン 2019」を概ね妥当なものとする。

(附帯意見)

- 1 「近江八幡市水道経営ビジョン 2019」を実施するにあたっては、市民意見に十分傾聴するとともに、計画の実効性を確保するため、進捗の定期的な評価、見直し等を適切に行われたい。
- 2 水道水の安定的な供給は、市民生活の根幹に関わるものである。そのため、現在の実施計画では費用等を考慮して更新時期を後年度に予定している管路・施設であっても、今後の情勢の変化等により早期の更新が必要である場合は、確実に地震等の災害対策や計画的な施設更新が実施されるよう対処されたい。
- 3 料金改定率については、当委員会でも複数案の検討を行った。耐震化や負担水準、経営的安定性を考えると、16%の値上げ案が妥当であると考えられる。市民へ負担を求める際には、事業内容や経営状況等を積極的に情報公開し、十分に市民理解が得られるよう努められたい。
- 4 今後の社会情勢を踏まえると、水道法改正の趣旨にもあるとおり、これまでのように一事業体だけで水道事業を運営する方法は容易ではなくなるため、効率的かつ安全な水道経営となるよう、官民連携や広域化等の効果的な手法について検討を続けられたい。

平成 30 年度近江八幡市水道事業運営委員会協議経過

	開催年月日	報告・協議内容
第 1 回	平成 30 年 6 月 5 日	(報告) ・近江八幡市水道概要 ・平成 30 年度水道事業会計予算概要 (議事) ・平成 29 年度水道事業会計決算見込み ・アセットマネジメント計画 (1)一般管路・施設の更新基準、 (2)ダウンサイジング、財政収支の検討 ・経営戦略、新水道ビジョンの進め方
第 2 回	平成 30 年 7 月 31 日	(議事) ・アセットマネジメント計画、経営戦略 (1)料金改定の考え方 ・官民連携
第 3 回	平成 30 年 10 月 11 日	(議事) ・アセットマネジメント計画 (1) 企業債、料金改定率等 ・新水道ビジョン (概要案)
第 4 回	平成 30 年 12 月 20 日	(報告) ・前回委員会での質疑、回答 (議事) ・アセットマネジメント計画概要 ・水道経営ビジョン 2019 ・答申 (案)
第 5 回	平成 31 年 2 月 15 日	(報告) ・アセットマネジメント計画 ・水道経営ビジョン 2019 ・答申

平成 30 年度近江八幡市水道事業運営委員会委員名簿

(敬称略)

選出区分	氏名	職業・役職等
学識経験者	◎山 田 淳	立命館大学名誉教授
	西 谷 順 平	立命館大学経営学部教授
	○田 中 茂 男	元水道事業所長
水道使用者 公募委員	水 口 詔 子	市民代表
	小 椋 恵美子	市民代表
	辻 さとみ	市民代表
その他管理者が 必要と認める者	野 田 禮 喜	市連合自治会
	梅 村 孝 男	管工事協同組合理事長
	植 野 博 史	滋賀県企業庁 経営課計画管理室長

◎委員長

○副委員長

近江八幡市水道事業運営委員会
委員長 山 田 淳 様

下記の事項について、貴委員会の意見を求めます。

記

本市水道事業に関しては、安全・安心な水道として利用者の信頼感の向上に取り組むとともに、持続可能で安定的な事業運営の継続に向けて進めているところです。

今後の収支にかかる見通しとして、料金収入に関しては少子高齢化の進展に伴う利用者の減少や節水機器の導入で水需要の減少となり、このことによって収入減に陥ることを見込むとともに、支出に関しては、老朽化する施設の更新等の投資需要の増大が見込まれます。

こうした中で、安定的な事業運営に向けて財源確保などの措置を考慮しなければならぬ時期が到来しています。

これらのことから、今後の水道事業にかかる健全経営の持続に向けて策定する「経営戦略（素案）」について、貴委員会に諮問するものであります。

平成30年6月5日

近江八幡市長 小 西 理